

「希望 (のぞみ)」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子どもの育成を目指します！

運営指導委員会の指導を受けて

本学校園では、研究開発の方向性について外部の先生方の専門的な見地からご指導いただくため、運営指導委員会を年間3回(研究会を含む)開催しています。

<運営指導委員の先生方>

- 小原 友行 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 天笠 茂 先生 (千葉大学教育学部特任教授)
- 無藤 隆 先生 (白梅学園大学大学院子ども学研究科教授)
- 深澤 清治 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 朝倉 淳 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 中村 正博 先生 (広島県教育委員会教育部義務教育指導課課長)
- 高尾 俊寛 先生 (広島県東部教育事務所教育指導課課長)
- 瓜生 八百実 先生 (三原市教育委員会教育長)



本年度の第1回の会を7月4日(月)に開催しました。運営指導委員の先生方には、研究の進捗状況の報告や提案保育・授業に対するご指導・ご助言をいただきました。

主な指導内容は、『希望(のぞみ)』の内容をより詳しく、わかりやすくしていこうとしていることがわかる。」「保育・教科共通の取組みについても、わかりやすく構想を示すことが大切だ。」「これまで築いてきたカリキュラムの効果を検証するために、保育・授業研究を重ねることが必要だ。」「12年間一貫のカリキュラムの良さが、具体的な子どもの成長した姿で見えると良い。」などでした。

ご指導いただいたことをもとに、「希望(のぞみ)」及び保育・教科の中で、幼小中の教職員が一体となって取り組んでいきたいと思えます。

「希望(のぞみ)」では、次の資質・能力や価値観の育成を目指しています！

※「・・・」は9年時に目指す姿です。子どもたちは、毎時間の振り返りの中で、このようなめざす力が付いたのかどうかを自己評価や相互評価をしながら学習を進めています。

○ キャリアプランニング能力(なりたい自分になる力)

「役割や仕事に責任をもって取り組んだり、意欲をもって学んだりしながら、自分と社会とのつながりについて考え、自分の将来や生き方を描くことができる。」

○ 人間関係形成・社会形成能力(関係を構築する力)

「相手の立場や気持ちを尊重しながら考えを分かりやすく伝え合ったり、相手の考えから自分自身を客観的に見つめたりするとともに、全体の状況を見通しながら、集団のさまざまな意見に折り合いをつけ、全体の意見としてまとめていくことができる。」

○ 課題対応能力(達成へ向かう力)

「地域社会とのかかわりの中で、新たに挑戦してみたいことを見つけて、見通しをもって計画立案を繰り返し、自ら目標を決め、最後まで行動することができる。」



○ 自律

「『なりたい自分』に向かって目標をもち、最後までやりきる大切さに気づく。」

○ 共生

「様々な人とかかわる中で、相手の気持ちを尊重しながら伝え合うことの楽しさや大切さに気づく。」

○ 参画

「よりよい集団や社会をめざし、自らすすんで問題を見つけ、その解決に向けて具体的に計画・立案・実行することの大切さに気づく。」



2つの部会から研究保育・授業を提案

昨年度から、「希望（のぞみ）」の時間だけでなく、全ての授業を通して前記の資質・能力や価値観の育成を目指しています。今年度は、運営指導委員の先生方に「希望（のぞみ）視点の保育」と、教科（国語）の研究授業を参観していただきました。

「希望（のぞみ）」入門期部会

（年中）『砂場で思い切り遊ぼう！』

もつと掘って大きくしようよ
温泉、気持ちいいね〜



もつと桶を長くつなげよう！



水出しているよ〜



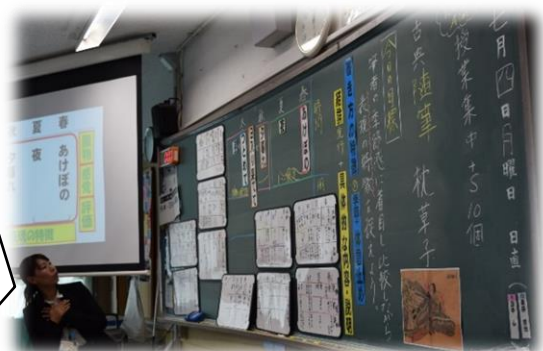
砂場遊びをする中で、自分のやりたいことに向けて、いろいろなことに気づいたり考えたりしながら、思い切りやってみる楽しさを味わうことを目指しました。「桶を長くつなげたい」「さくら組温泉プールを掘りたい」「バケツで水を流したい」など自分なりの思いが膨らみ、その思いの実現に向けて試行錯誤しながら遊ぶ姿が見られました。

保育・教科部会（国語科・9年）『枕草子』

表のようにまとめると
季節ごとの良さがわかるな。



新しく視点を見つけた班もあるね。



現代でも同じように感じる良さがたくさんあるね。

冬	秋	夏	春	
霜	夕日	雨	山	茶の雲
白鳥	雁	螢	山	細くたなびきたる
いと寒	風の音	がいたる	寝がら	眺見
(昼)	(からす)	(あはれ)	(をかし)	評価
	(をかし)	(はらわら)	なし	班

「私たちの枕草子」を擬古文（古文に似せた文体）で書くことを通して、自分と清少納言のものを見方や考え方を比較するとともに、古語の面白さを味わうことを目指しました。相手の考えを尊重しながら交流した内容を、班ごとにホワイトボードにまとめ、全体に分かりやすく説明する姿が見られました。

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/fmihara/kenkyu/>